

【高等学校用】

令和2年度学校評価 結果

達成度(評価)	
A	: 十分達成できている
B	: おおむね達成できている
C	: やや不十分である
D	: 不十分である

学校名	佐賀県立伊万里商業高等学校・佐賀県立伊万里実業高等学校商業キャンパス
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ○いじめ事案については件数も昨年度よりは多くあったが、撲滅に向けて小さな情報も見逃さずスクールカウンセラーとも連携し迅速にかつ丁寧に対応できた。安全安心な学校生活を送ることができるようにするためにも、教職員が率先して対応していかなくてはならない。 ○再編統合1年目であり、両キャンパス連携を取りながら学校運営を行ったが、一体感の醸成については、再編前の高校も存在することから配慮をしながらの学校行事となった。両キャンパス統一の基準はあるものの運用については詳細を詰める必要があることもわかってきた。 ○来年度は、全日制では再編前の高校が3年生のみの在籍となり、伊万里実業高校生が過半数を占めることになる。従来の取組だけを引き継ぐだけでなく、新高校の魅力づくりとして、両キャンパスの良さを尊重しつつも新たな取組も必要である。
2 学校教育目標	<p>【実業】心身ともに健康でたくましく、至誠と礼節を重んじ専門的知識・技術を生かして社会に貢献する人材を育成する。</p> <p>【商業】生徒一人ひとりの「生きる力・生き抜く力」を育み、経済社会の変化に十分に対応しうる、社会人・商業人としての資質(知識・技能)を身につかせ、社会に貢献できる心身ともに健全な生徒の育成を目指す。</p>
3 本年度の重点目標	<p>《～見る夢は叶わず 追う夢は叶う～》をスローガンとして、心身ともに健全な人材の育成に努めることにより、社会貢献ができる人間性豊かな生徒の育成を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○集団生活の中で、相互に理解しあう心を醸成し、協調性を高める。 ○基礎学力の向上に努め、思考力・判断力・表現力を磨き、進路実現100%を目指す。 ○新しいものを創造するとともに、来るべき社会の構築に積極的に参画できる生徒を育成する。

4 重点取組内容・成果指標 中間評価 5 最終評価

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価	
				進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	○年間計画に基づき基礎学力の向上を図る。	○国語テスト・英語テストの各クラスの平均点が18点(20点満点)以上 ○進路マップのGTZでレベルDの生徒を40%未満	・国語力、英語力向上のための小テストを実施する。 ・成績優秀者は年度末に学校長から表彰を行う。	B	・実施回により、国語テストにおいて、クラス平均点が18点未満のクラスが数クラスあった。 ・進路マップ実施は1月。	A	・国語テストの年間満点者12人、英語テストの年間満点者44人であり、前年度より1クラス減少しているにも関わらず、前年度と同数であった。	A	・2教科に限らず他教科も小テスト科目に入れて良いと思う。 ・臨時休業が長く授業等に影響が出たのではないかと。授業数の確保はできたのか。
	○読書活動の推進	○(学校独自成果指標・任意) ○生徒図書委員会を年間3回実施する。 ○生徒一人あたりの年間貸出数4冊以上	・朝読書の実施 ・図書館だよりを毎月発行し、新刊の紹介を行う。 ・図書館活用に向けた生徒図書委員で話し合いを持つ。	B	・緊急時以外は、朝読書を実施している。 ・毎月図書館だよりを発行している。 ・9月末で全校生徒の2.2倍の680冊を貸し出ししており目標達成に順調に貸し出しができています。 ・計画どおりに生徒図書委員会を行っている。	A	・朝読書は、緊急時以外は実施できた。 ・毎月図書館だよりを発行できた。 ・1月末で全校生徒の3.3倍の1,011冊を貸し出ししている。生徒一人あたり4冊には届かないが、昨年度より、貸出冊数が大幅に増加した。 ・計画どおりに生徒図書委員会を実施できた。	A	・朝読書では、自分が読みたい本を自宅から持って行っていただようである。 ・図書館に必ず行く日等を決めてやると、図書貸し出し等も増えるのではないかと。
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○講話を受けて「ためになった」と答える生徒が80%以上 ○特別指導件数0件	・防犯講話、交通講話、ネットマナー講話など通して規範意識を培う。 ・人権教育を充実させる。	B	・防犯講話と薬物乱用防止の講演会を同時に開催した。また講演会終了後にアンケートと感想文を記入させ、県警本部にも提出した。感想としては、暴力団と薬物との関連性や被害に遭うのは女性が多いことに驚いたなどの感想があった。10月末現在、特別指導の件数は0件であるが外部からお叱りの連絡などが例年になく多い。	A	・講演会については、新型コロナ感染予防対策のために、効果的な指導が困難であった。防犯講話の際には、感想文を記入しほとんどの生徒が「ためになった」と回答した。特別指導の件数は0件であったが、前期は地域の方々からのお叱りの連絡が多くあったが、後期はその状態も減少しつつある。この一年、市関係者・中学校・高校・警察との連携が困難であった。	A	・新型コロナ感染防止の観点で思うように講演会等が実施できなかったようであるが、注意喚起等の講話ばかりではなく、夢を持たせるような内容の講演会等も実施してはどうか。 ・インターネット環境が整っているなら、体育館での対面ではなく、オンラインでの講演会も実施可能ではないかと。講演者も県外から発信できる。
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ問題に対し未然防止、早期発見早期対応、再発防止への組織的な対応ができていると回答した教員が80%以上	・毎月1回いじめアンケートを実施する。 ・いじめのない学校宣言を生徒会を中心として行う。 ・スクールカウンセラーと連携して生徒の状況把握を行う。	B	・いじめアンケートの内容を刷新しオンラインで毎月1回行い、問題の早期発見早期対応につなげることができている。 ・スクールカウンセラーの日程を早めに周知し、生徒の状況把握ができている。	A	・毎月1回のオンラインによるいじめ・日常生活アンケートやスクールカウンセラーとの連携により、生徒のさまざまな悩みや問題の把握と、早期の組織的な対応を図ることができた。	A	・いじめ等の問題があると学校は学年集会等をいち早く開き対応していると思う。
	◎ふるさと佐賀への思いを醸成するための教育活動	○講話を受けて「佐賀県に誇りや愛着を感じる。どちらかというと感じる」と回答した生徒が70%以上 ○地域ボランティア活動を年間2回実施	・地域に関係する講演会の実施 ・地域ボランティア活動(ゴミ拾い)の実施	B	・新型コロナウイルス感染症防止のため、講演会の実施は見合わせ、佐賀県教育委員会発行の「高校生向け郷土学習映像資料」を視聴させるようにしている。	A	・アンケートの結果、「佐賀県に誇りや愛着を感じる。どちらかというと感じる」と回答した生徒は78%であった。	A	・夢や希望を抱かせるような講演会があると良いと思う。
●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	○「お弁当の日」に参加した生徒の割合50%以上 ●「健康に食事は大切である」と考える生徒90%以上	・食育だよりの毎学期発行 ・お弁当の日(自分で弁当をつくる)の設定 ・食育に関するアンケートの実施	B	・お弁当の日を毎月1回設定しチェックシートの記入と回収、と写真の保存を行い、結果を掲示している。また、おかずのレシピなども掲示し、お弁当作りへの意欲喚起を促しており、さらに多くの生徒が作って行くようになっていき、学校評価アンケートでは96%の生徒が食事の大切さを意識している。	A	・延べ人数では50%以上を達成することができた。新たな意欲喚起の取り組みを行ったが、次年度では家庭科とも連携し、さらに力を入れて行っていく。 ・食の大切さについてはほぼ100%の生徒が意識してくれているので、もう一歩踏み込んだ指導ができるようにしていく。	A	・お弁当の日は、九大の先生の講演会が発端で始まったと記憶している。お弁当の日は続けていくことで食に関する意識は更に向上していくと思う。
	●「安全に関する資質・能力の育成」	○学校管理下での怪我等による一人あたりの災害給付申請件数を5%以下とする。 ●生徒の交通事故を0にする。	・電子黒板を使った生徒による保健ニュースの説明 ・怪我予防のDVDを視聴 ・交通安全意識啓発を行う。	B	・ホームルームで熱中症予防として保健委員が熱中症クイズを作成して保健指導を行い、また頭部外傷、歯の外傷、目の外傷の動画を視聴する機会をつつた。怪我の予防のための安全教育を行っている。保健ニュースをパネルにて教室に掲示している。	A	・感染症予防対策など安全・健康教育をホームルーム活動をはじめあらゆる機会を捉えて徹底して行い、新しい生活様式の実践に努めた。外部講師によるがん教育では教育効果を高めることができた。学校管理下の災害給付件数は18件(6%)、高校生同士の接触事故は1件発生するも事故時の対応マニュアルの構築ができた。	A	・学校周辺は平坦な道であるが、危険箇所も多いので、今後も交通安全には十分取り組んでほしい。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	○教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・定時退勤日の設定 ・学校退庁日の設定 ・業務記録表の記録 ・教職員の退勤時間の設定	B	・具体的取組はできているが、一部の教員においては、部活動指導との兼ね合いや授業の教材研究等を鑑みると時間外が多くなっている。 ・各月時間外平均が昨年度よりも減っている。 ・個別に対応することで時間外の削減につなげていきたい。	A	・一人あたりの1ヶ月間の時間外勤務平均時間が各月とも前年度より下回ることができた。 ・時間外勤務に頼ることがないよう、メリハリのある仕事をするための意識改革を継続していかなくてはならない。	A	・出張等もオンライン会議等に変えることで、移動時間の縮減による時間外労働の短縮にも効果があると思う。 ・今年度企業はすべてオンラインによる研修になっている。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価	
				進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
○ICT利活用	○ICT機器を活用した家庭学習の支援	○家庭学習のための課題配付を学期ごと(3回以上)に行う。	・機器の設定 ・家庭の通信環境の把握 ・県教委からの支援を得る ・ICT機器の授業等での活用	A	・学校休業が起こってもオンライン授業等の準備はできている。 ・各学期毎に生徒及び職員とのオンライン機器の取り扱い確認を行っている。	A	・オンライン授業に対応できるよう年間を通じて職員向けの研修会やテスト授業を複数回実施できた。 ・オンライン機器の現状確認および機器導入にあたってその都度職員に情報を提供するよう努めた。	A	・本校はオンライン授業等の環境は整っていると思う。
○校舎制	○部活動の円滑な実施のためのスクールバスの活用	○スクールバス利用実績が0となる日がないようにする。	・部活動ごとの活動場所の設定 ・ICカードでスクールバス利用者の把握 ・移動が必要な部員数の把握	A	・ICカード利用により乗車生徒の把握等ができている。 ・部活動の活動場所は確定させ、移動においての支障は起こっていない。	B	・定期考査前期間の部活動の練習や商業キャンパスのみの検定のための特設期間中の部活動では、両キャンパス間の活動の把握が十分でなくスクールバスを活用しない日があった。	B	・学校行事は極力一緒に実施した方が、お互いの校舎の生徒どうしがわかり合えて良いと思う。 ・校舎制はいつまで続くのか。できれば1つの校舎で学ぶのがベストである。

5 総合評価・次年度への展望	<p>●...県共通 ○...学校独自 ◎...志を高める教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度はコロナ禍の中、学校行事等も思うようにはできなかったが、なるべく例年どおりの教育活動となるように綿密な計画等を立てて行うことで、教職員の一致団結した取り組みができた。 ・これまで2年間で校舎制をとる高校としてのシステム等は概ね整えることができたが、来年度、伊万里実業高校の完成年度を迎えるにあたり、更に詳細を検討し、魅力ある学校づくりに努めていかなくてはならない。
----------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------